

氏名	Anna Davtyan, ダフチャン、アンナ
学位の種類	博士(経営管理学)
報告番号	甲第454号
学位授与年月日	2017年3月31日
学位授与の要件	学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号) 第4条第1項該当
学位論文題目	Tourism Impact on the Economic Development of the Republic of Armenia: Community-Based Tourism for Regional Development (アルメニア共和国の経済開発における観光業の貢献 —地域開発のためのコミュニティの観光業—)
審査委員	(主査) 黒木 龍三 庄司 貴行 (立教大学大学院観光学研究科教授) 安田 直樹

## I. 論文の内容の要旨

### (1) 論文の構成

論文の構成は以下のとおりである。

#### 1. Introduction.

1-1. Background, 1-2. Problem of Statement, 1-3. Objectives of This Study, 1-4. Hypothesis of the Study, 1-5. Study Area/Republic of Armenia, 1.6. Structure of Thesis,

#### 2. Background/Literature Review.

2.1. Defining Tourists, Tourism,

2.2. Products, 2.3. Tourism Products/Types of Tourism, 2.4. Effects, Impacts of Tourism, 2.5. Tourism Policies, 2.6. Role of Marketing/Advertisement in Tourism.

#### 3. The Republic of Armenia: Tourism industry.

3-1. The Republic of Armenia, 3-2. Armenian Tourism Sector Outlook,

#### 4. Economic Impact of Tourism: The Republic of Armenia (National Level)

4.1. Measuring the Impact of Tourism, 4.2. Methods of Tourism Economic Impact Measurement, 4.3. Data Overview and Methodology, 4.4. Result and Discussion,

#### 5. Tourism's Regional Impact.

5.1. Specific Overnights Threshold (SOT), 5.2. Actors, 5.3. Homestay CBT, Eco-Tourism Programs/Projects, 5.4. CBT Enterprises, 5.5. Community Based Tourism Projects, NGOs, Study in RA, 5.6. Case Study: Community-Based Tourism in RA,

#### 5.7. Summary

#### 6. Cost Efficient CBT Support and Development: Student as Workforce/Interns in Tourism Industry,

6.1. Internships, Literature Review, 6.2. Survey with the Students of Armenian Universities and Colleges.

#### 7. Conclusion

7.1. Summary of Findings, 7.2. Limitations of the Research, 7.3. Significance of the Study, 7.4. End Notes/Suggestions (CBT Model)

References and Appendices

### (2) 論文の内容要旨

観光業は、世界中、とりわけ新興諸国で主要な産業のひとつになってきた。

以前はソ連邦の一員であったアルメニア共和国においても、観光業は急速に発展した産業

で、外国人の訪問者は、現在 120 万人以上に上っている。当該論文の目的は、アルメニア共和国の観光業を分析・研究することであるが、その理由の 1 つは、観光業が、諸産業に利益をもたらし、成長を牽引するからである。現象的には、ホテル事業に見られ、2011 年に 338 軒あったホテル数が、2015 年には、523 軒に増加したことにも見られる。

研究目的の細目について、第 1 は、観光業が、国レベルでの経済における役割や立場、そして効果を分析することにある。コミュニティの観光業 (Community-based tourism, 略して CBT) は、地域社会が観光に組み込まれることで、その社会的、環境的、経済的発展を促進するような運営が求められる。第 2 は、地域レベル、とりわけアルメニアの地域観光の役割を明らかにすることである。アルメニアは、自然と文化両面で観光資源に恵まれていることが分析の前提になる。

本研究は、このアルメニアの観光分析にあたって、定性的・定量的方法を用いている。

1. アルメニアの観光産業の有益性について、観光産業と他の、農業や鉱工業の相互依存を投入産出分析で検討し、明らかにする。2002 年と 2006 年の IO 表を使って、乗数分析等を行い、地域への観光の重要性が議論されている。

2. 近年のアルメニアの観光業の実態を理解するために、経営者層に対してインタビュー調査が行われた。また CBT の労働コストの分析の一環として、学生に対し、観光業でのインターンシップを望むか、調査がなされた。

アルメニアの観光業は、他国と比較して、産出乗数、観光乗数、観光雇用乗数、観光輸出の割合のいずれもが大きく、輸入にもほとんど依存しないので、アルメニアの経済発展に大きな役割を果たすことが分かった。しかし、同時に明らかにされた問題は、観光業の恩恵が首都に集中していることで、地域の観光業の発展はまだ低レベルに留まることだ。

観光業関連の経営者たちは、地域の発展のために CBT を利用し、また、関連する知識を獲得し、あるいは互いに協力することを望んでいる。一方で、学生たちの無償での観光業への取組み (無償のインターンシップ) で、安価な投資費用で地域や全体での観光業の発展を促進することも期待される。

## II. 論文審査の結果の要旨

### (1) 論文の特徴

アルメニア共和国の特徴として、石油やガス等、天然資源には恵まれない一方で、人的資本は豊富で、全体的な経済発展戦略のために、人的資源を基盤とした観光業は非常に有益であると判断し、その研究に取り組んだ。

1) 投入産出表から、レオンチェフ逆行列に依存する産出乗数、どの部門が全体の生産に最大の貢献をもたらすかを示す、分散力指数 (index of the power of dispersion)、類似した装置に分散反応指数 (index of the sensitivity of dispersion)、輸入依存係数等を計算し、輸入のアルメニア経済に与える影響を初めに分析、特に、観光が入ると思われる 2002 年の「その他産業部門(other sectors)」と 2006 年の「ホテル・レストラン部門」の産出乗数は、オープンエコノミーを考慮しても大きかった。

観光業は、例えば農業部門や輸送業、情報技術産業において、大きな影響をもたらす。2002 年と 2006 年の投入産出表の分析から、観光関連産業が経済発展の主要産業になっていることを明らかにした。

2) マクロ乗数の分析：日本、タイ、マレーシア、そしてグルジアについて、比較分析のため、それぞれの観光乗数を計算した。その結果、アルメニアの観光乗数が最も高いことが判明した。観光乗数が高いことは、最初の支出がより大きな所得を生み出すことを意味する。アルメニアの観光は、他の国々と比較して、観光に占めるいわゆる「ディアスポラ(移住者)」の一時帰国が多いことが特徴である。彼らはおもに出身地の地域に滞在するので、その支出は直接、地域においてなされる。また、彼らの再訪も多い。

一方で、観光の環境や地域文化に対する負の影響なども考慮する必要がある。

地域観光 (CBT) は、雇用を生み、所得を増やし、まずは地域経済の発展に貢献する。ただし、地域住民のコミュニケーション能力が重要で、英語の習得が必須であるが、幸いなことに学生の会話能力は極めて高い (アンケート調査から)。

このような観光経済の研究は、アルメニアの経済の発展に対する観光産業の役割を理解し、観光のための法整備やルール作りを行うにあたって、政府組織にとっても非政府組織にとってもともに重要であることが最後に指摘される。

### (2) 論文の評価

今日、先進諸国、新興諸国問わず、世界的に見ても、観光経済の研究はきわめて注目されている。観光の研究には、経済や文化、制度など、さまざまな切り口があるだろうが、観光経済の研究は、もっとも必要とされる分野の 1 つで、それに正面から取り組んだダフ

チャン氏の論文は、高く評価される。観光の定義やその研究の意味から説き起こし、観光経済分析をマクロの国レベルと、どちらかと言えばミクロの地域レベルから行う姿勢は、観光経済の分析自体を位置づける上で重要であるし、そのうえで、アルメニア共和国という、特定の国と地域について、投入産出分析によって具体的な定量的分析を試みた点も、大いに評価してよい。

初めの章は、観光経済についての全体像の紹介で、博士論文に必要かどうかは若干迷うところでもあるが、一方で、観光経済学、という分野そのものが目新しいこともあり、少なくとも読者には重宝である。第3章から第6章までが、アルメニアの観光経済分析に充てられ、その分析道具に投入産出分析を用いたことは、産業同士の相互依存を見る上でもきわめて有益で、最も高く評価される部分である。とりわけ、アルメニアが無資源国で、観光産業による経済発展が最も期待される国の1つであることを考えると、他の、とりわけ新興諸国に与える、こうした研究の意義はきわめて大きいだろう。

ダフチャン氏が、観光経済の分野で、ますます研鑽を積み、更なる成果を出されることを祈って、氏の提出した博士請求論文を、合格とする。